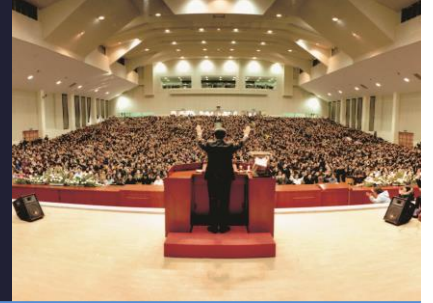


恵みと真理のニュース



2017年12月の五次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

あなたがたを襲った試練で、人間として

耐えられないようなものはなかったはずですよ

子供の時、母が熱心に偶像崇拜をする姿を見ながら育ちました。村に占い師が3人もいました。母はよく占い師を訪ねて、朝ごとに遠い所からお水を持って来て福を願いました。このような環境で育ちましたが、私は福音を聞いてイエス様を信じるようになり教会で鐘がなるとすぐ教会に走って行きました。教会学校で賛美を歌って聖書を勉強するのが楽しかったです。ある主日に教会で行って頭が痛くて家に帰って来たら、母は私を背負って病院ではなくて占い師がいるところに連れて行きました。占い師は私にこれから教会へ行かないようにして、母には私の聖書とイエス様と関連するのは何でも燃えて無くすようにさせました。母は占い師が言われた通りにして私も教会を辞めましたが、治らなかつたです。その後、育ちながら神様を忘れて生きて行きました。青年になってプサンからグンポ、サンボンで上がって来て姉の家で過ごしながら職場に通いました。そして、25歳の時、結婚しました。旦那の家族がキリスト教の家庭でした。旦那は教会に通わなかつたが、私には教会に通うと勧めました。娘二人を産んで養育し熱心に信仰生活をする中で旦那もイエス様を信じ信仰生活を始めました。聖霊で充滿になって共に区域長の職分を受けて教会を仕え伝道に力を尽くしました。私は不信者を伝道するとき相変わらず偶像崇拜をしている母が心にかかりました。旦那の許可を得て一週間また二週間に一回ずつプサンの母に下りて母と共に過ごしながら福音を伝えました。頑固な母を伝道するのは難しかったです。しかし、休まなくて神様に祈って熱心に伝道したら母が亡くなる直前にイエス様を救い主として受け入れました。私の伝道でイエス様を信じるようになった弟が仕える教会で多くの方が来られて葬式礼拝を捧げる時、言葉で表現できないほど喜んで感激でした。

2011年7月11日でした。午前青天の霹靂のような電話がきました。二番目の娘が会社に行くとき大きい道で交通事故に合って今、大学病院で応急措置をしているとしました。私は娘を助けてくださいと神様に祈って病院に走って行きました。夜になって娘の姿を直接に見ることが出来ました。娘が私を見てお母さん！呼ばれるとき、少し安心して神様に感謝しました。しかし、娘がお母さん、手が動かないよ、足も動かない。と話を聞いたとき呆然としましたが、「これから動くようになるよ。」と言いました。事故が大きかったのが娘は脊椎の骨があちこち傷つけられ首の下で全部麻痺になりました。ブンドンにある大学病院に移して靱帯縫合手術と脊椎手術を受けました。集中治療室と入院室を歩き来し繰り返して何度も死線を越えました。どうしても娘を生きようと二か月に一回ずつ病院を移しました。病院の近くに部屋を借りて娘の介護をして結局、私も倒れてしまいました。私もあちこちの病院を通い治療を受けなければならなかつたです。子供が痛かったのも苦しいですが、私さえもこの状態になって肉体と精神的に担えることが大変でした。もっと大変な苦痛の時間の中で神様の御言葉を黙想しました。その時この御言葉を通して大きい慰めを受けました。あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですよ。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。(コリント信徒への手紙10:13) これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。(ヘブライ人への手紙12:11) 当会長の牧師が娘と私の回復のた祈ってくださいまし

た。また、教会で多くの方が共に祈ってくださいました。神様の恵みで私の健康を探して、娘もあるときから味を感じるようになって状態がよくなり始めました。今も良くなりました。娘は退院をした後、家でインターネットで礼拝を捧げました。そうしながら、教会に行き礼拝を捧げるの願ひ祈りました。たとえ電動車椅子に頼って今は娘の力で教会を歩き来、礼拝を捧げています。平日には礼拝と祈り会も休まずに三席していつも明るくて肯定的な態度を見せてくれる娘にありがたいし、殊勝でした。神様がもっと驚くべき権能を与えてくださって娘が以前の健康を探して教会で主の事を熱心にする姿を描きながら神様に祈っています。神様は長女に音楽の才能を下さし、遠いイタリアで音楽を勉強するように助けてくださいました。神様の恵みで娘は願う大学に入って様々な問題を乗り越えてすべての過程を終えることが出来ました。大学卒業した後、現地で何回演奏会をして来年2月帰国をしようとしています。神様の恵みと愛に感謝し、世界的な音楽家になって神様を賛美し、神様に栄光を捧げる娘になるため祈ります。神様にすべての栄光を捧げます。神様は旦那に去年、長老の聖なる名誉な職分をくださいました。神様にすべての栄光を捧げます。いつも溫柔で謙遜に主の事で全身全力をする私の家族になるように願ひます。あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。(フィリピの信徒への手紙2:13) ”あなたがたは、受けようとしている苦難を決して恐れてはいけない。見よ、悪魔が試みるために、あなたがたの何人かを牢に投げ込もうとしている。あなたがたは、十日の間苦しめられるであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、あなたに命の冠を授けよう。”(ヨハネの黙示録2:10) ハレルヤ!



【信仰コラム】

憂鬱な心を治める秘訣

”...自分の死を求めて言った、「主よ、もはや、じゅうぶんです。今わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまさる者ではありません」。(列王記上19:1~4)

自殺原因で最も大きい比重を占めることの中で一つが憂鬱症です。憂鬱症にかかった人は気分が沈鬱で何事でも悲観的に考えるようになり、細やかなことが心を支配し不安で堪らなくなり、まるで灰色の世界にひしがれたような感じになるということが医学的な説明です。私達がどのようにしたら憂鬱な心にならないよう憂鬱症を予防して治癒しながら生きていくのができましようか?

まず、私達が知るべきことは誰でも憂鬱な心の状態を経験するという事実です。

聖書に出る傑出な人物も例外ではありません。ダビデも憂鬱な心状態になったことがあります。ダビデは彼を妬んで殺そうとするサウル王によって数年間を当て所もなく逃避する中で何回も危機を経験しました。王になった後にも苦難が多くありました。息子アブサロムが反乱軍を連れて王宮に向けて進撃することを見て裸足で泣きながら逃避の道に出たこともあります。詩篇には彼が直面した状況を描写しておきました。ダビデは苦難が重畳して人々の笑いを招いて、お祈りの応答も遅延されるので心が憂鬱になり昼夜に泣きました。

偉大なエリヤ予言者も憂鬱な心を持ったことがあります。エリヤはカルメル山でバアルの予言者達との対決で勝利しました。そしてお祈りすると3年6ヶ月の日照りが終わり雨が降りました。王侯イゼベルが24時間内に殺すという通牒をするとエリヤは遠くベエルシバまで逃げました。そして一人で広野に入り、レダマの木の下に座って疲労困憊して憂鬱症に陥り神様に不評しました。憂鬱症に陥った人は自分だけ考えます。自分だけが正しく、自分だけがしんどい困難に処されたと考えます。

困難と苦痛を受けると憂鬱な心状態になり得ます。困難と苦痛を感じる状況とはただ、肉体的で経済的なことだけではありません。ノベル文学賞を受賞して名声と財物を全て持つようになったアーネスト・ヘミングウェイや川端康成のような有名な作家も憂鬱症にかかって自殺しました。しかし、私達が注意すべきことはダビデやエリヤは苦境と危機に直面して憂鬱な心状態になったが憂鬱な状態が持続されませんでした。直ちに憂鬱を振り捨てて正常に戻りました。

次は、憂鬱な心状態にならないための方法を調べてみましょう。

一、憂鬱症が深刻なら専門医の助けを受ける必要があります。食物、医薬品、医者の手も神様が人の健康のために与えてくださった恵みです。特に、脳神経伝達物質であるドーパミン、セロトニン、ノルアドレナリン、メラトニンの減少による場合は抗うつ剤の処方を受ける必要があります。更年期の憂鬱症で悩む方はマ

グネシウムを摂取することだけでも直ちに効果を得ることもあります。定期的に適当な運動をして日光に露出される時間を多く持つのが必要です。健全な対話、信仰に属した対話を多くするよう努力すべきです。

二、物事に最善を尽くして結果は神様に任せるべきです。神様の導きと決定通りになるのが終局には最も良くなることであるの信じるべきです。神様は御自分を徹底に信頼する者が恥をかかないようにしてください。神様の善と真実を信じる者のために予備な賞をこの世で、あるいは天国で与えてくださるでしょう。

三、他の人と比較して競走しながら生活せず、神様に向いて誠実に生きていくのを目標にすべきです。聖書にはまず神の国と神の義を求めよう記録されています。他人より多く持ってより高い場に座り、より有名になることが目標になって生活すると時間が経つにつれて空しい感情が心を満し憂鬱症に陥ってしまいます。尊い時間を浪費したことを後になって分かるようになります。

四、苦難と苦境を神様をより多く考えて近くすることが出来る契機に扱うべきです。苦難と苦境に処されてより多くお祈りしてより多く賛美すると憂鬱症が心に根付く余地がなくなります。できれば声を出して聖書を読み、叫んでお祈りして手のひらを打ちながら賛美すると様々な面で良い結果を得ます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

いたずらの信仰と真の信仰



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

今日の本文には、「もしあなたがたが、いたずらに信じないで、わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。」しました。救いを得るためにいたずらに信じないようにします。パプテスマのヨハネは、イエスを指して「また、箕を手を持って、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め、からは消えない火で焼き捨てるであろう」(マタイによる福音書 3:12) しました。私たちは、自分が持っている信仰がいたずらの信仰なのか、真の信仰なのかを確認する必要があります。から信者ではなく、穀物の信者になる必要があります。自分が持っている信仰がどの信仰か察し確認しなければならぬ理由は、その信仰が救いに関連しているからです。私たちは、救いの重大性について ヘブル人への手紙 2章にこう記されています。

「こういうわけだから、わたしたちは聞かされていることを、いっそう強く心に留めねばならない。そうでないと、おし流されてしまう」(ヘブル人への手紙 2:1)

ここで、「聞かされていること」というのは救いの福音を指します。福音の核心はあがないの恵みと真理です。「いっそう強く心に留めねばならない」という言葉は、聞いて学んだ言葉を深く秘めて固く握るという意味です。「おし流されてしまう」しました。聖書には、流れ流さ行った人々に対して記録しました。

イスカリオテのユダは、真の信仰を持つことができず、お金による誘惑の波に流れ流されました。祭司長や律法学者たちがイエスをどのように殺すか、その方策を探していました。その時イスカリオテのユダが祭司長たちに、イエスを渡す方策を議論しました。彼ら喜びてイスカリオテのユダに銀貨を与えることを約束しました。イエスはすでに イスカリオテユダの心をすべて見て、彼の改めするために、数回に渡っていろいろ言われました。しかし、イスカリオテのユダは、最終的に、祭司長たちと交渉して銀30を受けて、イエスを逮捕するように手先になりました。使徒パウロの同労者デマは真の信仰を持つことができず、世の楽しみという誘惑の波に流れ流されました。デマの発表は良かったです。「わたしの同労者たち、マルコ、アリスタルコ、デマス、ルカからも、よろしく」(ピレモンへの手紙 1:24)と記録された。ところが、彼の終わりが良くなかった。「デマスはこの世を愛し、わたしを捨ててテサロニケに行ってしまう、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマテヤに行った」(テモテへの第二の手紙 4:10)と記録された。

救いの重大性についてヘブルに記録されることを「御使たちをとおして語られた御言が効力を持ち、あらゆる罪過と不従順とに対して正当な報いが加えられたとすれば、わたしたちは、こんなに尊い救いをなござりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救いは、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかされ、さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである」(ヘブル人への手紙 2:2-4) しました。

救いを指して、「このように尊い救」としました。私たちが得た救いは、安価なものはありません。神様が天地を創造される時には御言葉で言いました。しかし、罪人を救うためには、ひとり子を世に遣わし、私たちの罪を代わりに担当して十字架につけられ贖いの死を死に掛けました。したがって、「このように尊い救」と呼んだのです。「このように」という言葉には、無限の内容が意味されています。①罪を赦します。②義されて聖別されます。③神様の子どもになります。④悪魔の支配から自由になります。⑤将来の世を治めます。⑥復活されます。⑦天国で永遠に生きます。

「この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかされ、さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。」としました。救いの福音が伝播されたパスを語っています。神はイエス・キリストを送ってあがないの働きを果たし、聖霊を送って力を伝道者を通して示されました。したがって、救いの福音を無視して拒絶することは、神を軽蔑するも同然ではありません。このように行動する人がどうして神の裁きを免れることができるでしょうか？

使徒パウロが宣教旅行の途中のピシディアのアンテオケに行きました。安息日に会堂に入って会堂管理者がパウロに説教する機会を与えました。パウロはこれを伝道の機会としました。その次の安息日にも説教してほしいという要請を受けました。次の安息日には、信じられないほど多くの人々が集まりました。ところが、二つの反応が現れました。妬みがいっぱいして、パウロを非難と攻撃するユダヤ人がいました。パウロは彼らを見て、「永遠の命を得るのにふさわしくない者が自らその行動している。」と指摘しました。一方、福音を聞いて大いに歓迎する人がいました。「永遠の命をいただくように定められた者は、皆が信じた」と説明しました。私たちは、自分が救いの福音、永遠の命の福音を信じる信仰の中にあるのかを調べる必要があります。

コリント人への第二の手紙 13章5節に記録されることを「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。それとも、イエス・キリストがあなたがたのうちにおられることを、悟らないのか。もし悟らなければ、あなたがたは、にせものとして見捨てられる。」としました。

「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい」確認せよとしました。自分が信仰の中にあるのかをテストし、確認するようしました。この信仰は、神への信仰であり、また、神の言葉への信仰です。アベルは信仰の中にありました。そして、神の啓示された通りの祭壇を築き、初の羊の子この油で生け贄にしました。

エノクは信仰の中にありました。神の言葉に耳を傾け、神と同行していました。ノアは信仰の中にありました。神はノアに洪水の審判を予告し箱舟を予備して、自分と彼の家族が救われるように言われました。ノアは、自分の経験による知識よりも、神から与えられた言葉の知識に基づいて信仰を持ちました。人々から非難と嘲笑を受けでもかまわないでした。その信仰に箱舟を予備しました。信仰の外にいた人々は、洪水で滅亡しました。信仰の中にいたノアとその家族は救われました。アブラハムは信仰の中にありました。「アブラムは主が言われたようにいで立った。ロトも彼と共に行った。アブラムはハランを出たとき七十五歳であった。アブラムは妻サライト、弟の子ロトと、集めたすべての財産と、ハランで獲た人々とを携えてカナンに行こうとしていで立ち、カナンの地にきた。」(創世記 12:4,5) 彼は神を信じて、神の御言葉を信じる信仰の中にありました。

皆さんは 自分がこのような信仰の中にあるのかを察して試験してください。神の言葉と逆らった神学や教訓の中にいないかを確認する必要があります。誤った知識と我執という不純物があれば直ちに除くして下さい。イエス・キリストがあなたがたの中におられることを知っているか検査し、確認するようしました。

「イエス様が私の中におられる。」と認識している人から見られる現象があります。イエス様を信じて受け入れれば、イエスと神秘的な連合をすることになります。このような人には永遠の命があつて義があります。イエスが私の中におられることを認識している人は、主を喜ぶしようとする願いと意志があります。自分の中にイエス様がおられることを認識している人は、福音を宣べ伝える意志と情熱があります。自分の中にイエス様がおられることを認識している人は、主の力と知恵を積極的に求めて依存することになります。

イエスが自分の中におられることを認識している信徒はできないこともあります。宗教多元主義と、宗教混合主義を収容することができません。福音の真理を混雑することができません。教会を壊滅させ、聖徒たちを殺す共産主義者になったり、それらの側にかばう立つのか、または悪行に対して沈黙することができません。自分の欲を満たすと欺瞞の人に害を与え脅かす行為に対して同調、かばう 沈黙できません。これは、神の品性に正面に背置されるからです。自分が信仰の中におらず、イエスが自分の中におられないことを知らない人は、「捨てた者」としました。神から見捨てられた者となるよりも不幸でひどいはありません。良くない実を結ぶ木が良い実を結ぶ木に接ぎ木されると、性向と本質が変わられ良い実だけ結ぶされます。果実は、その人がする言葉ではなく、その人の行動です。

今まで見たことは、真の信仰を持つと信仰の中にあるもの。そして、イエスが自分の中におられることを確認できるようにするための基準です。愛する皆さんの中には いたずらに信じる人がいないと思います。そして、自分が信仰の中にあつて、イエスが自分の中におられることを知って、それが事実であることを証明する実が行動で現れることを願います。